

名を凡良哈へ記入
 一七高山ふのやうと
 東の方を眺望する
 無雙の高峰あり
 是日本の富士山の
 一見甲乙と清
 正より軍事まで
 不思議なりふ所の
 者申の當邦第一
 の名山なり海中に

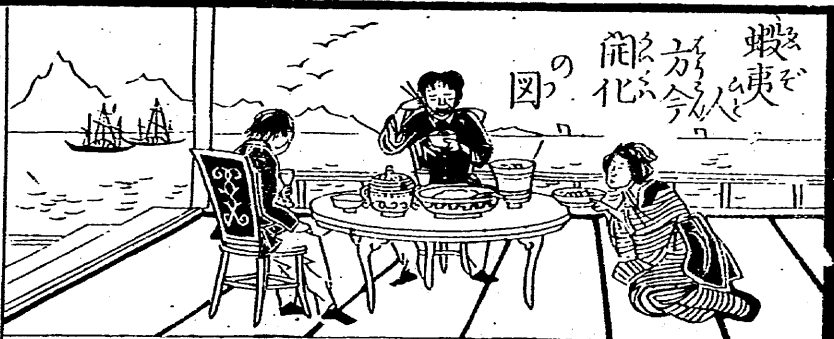
慢戸湾より東に松島界
 お田代より阿久山男女
 嶽天を登るは二河の基
 此の海濱多し
 空に足寄るは舟網を河

一七眼前の高山
 山より海底に
 入所は十丈とて
 一七がれ名山とて
 一七清正より諸軍
 驚感する當今
 北見国の利尻山と
 一七は是なり
 一七哉
 王政御復古萬機

上は増つて此より西別嶽南
 降里國界あり
 野廣く其東側は山あり
 第十は是松室東に端
 古海を隔て千石と海を

御親裁の聖時
 たりて此州全国
 王化ニ歸一更ふ
 十一州ふが割一た
 まひ北海道と定め
 たりふ
 夫蝦夷人の其性
 の愚ふしと至る善
 かり 国小王といふ人
 なくして只一村切ふ

なほ西部を越え山原を
 南中三押南をよ花咲川
 路界越れ東より十路島家
 遠く大なるい印唄丹島
 して松金村の活属を厚



生別や後分れ水も野付
 乃ち海をまき北より標
 津日架海村を北見乃
 さうひなるまき玉平原谷地
 して南に湖水を有り

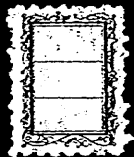
裏落をたうて其
 國中ふ家筋のふ
 一人を望んて其
 村の長とててま
 と計まり男女
 終日山海ふて諸
 品を獵し松前
 小出く交易し
 人争を養ふとて
 其国の方言數多

第十百傳の國は海道
 此の方ち大島で多
 伊波に教多あり相
 海に舟はは玉後郡
 出打山といふ登り夫

只其二
 十ほどの數の多と
 なるふり
 一 二 三 四
 五 六 七 八
 九十
 此余に
 田舎一

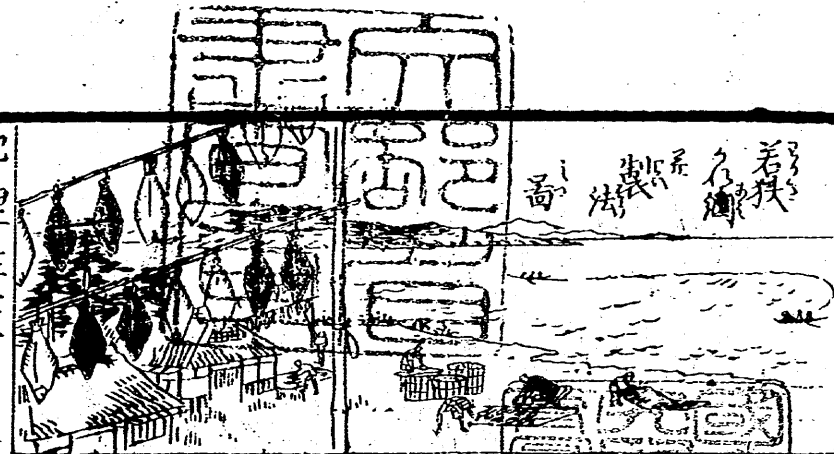
東北の方長を傳
 伝はるは津の科
 形振別座より
 出中水角にあま

郡名
産物
日本地理往来
下

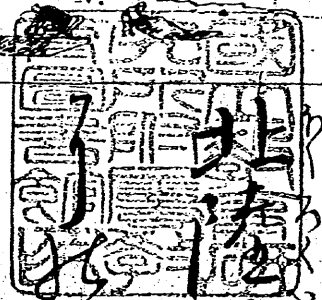


華一第
學區
學局
印習大

九里主下



若狭 名 津 島 製 船 高



北海道を七ヶ國。北海
 乃方大陸より
 先第一と若狭のま丹波
 路より北のま海に西海

北陸道ハ往昔崇神
天皇のころ辺夷王
化し帰るに大
彦命と北陸を
征伐し翌年平
治しと帰陣
此時代北陸と越
越の国と其域廣
大なりと今の越前の
地より遠く津輕

精るあり。少彦と能く
宮ある。石浦のき一
第二番は越前と東
空なる山多し。西
北陸あり。若狭の

地まても越の国と
越又高志とも書す

○若狭 三郡

大飯 遠敷 三方

田數三千百三十九丁

高九万四千八百石

○土産 酒屋 砥 硯石

筆 辛戌石 灰 本 履 碁石

鰒 鰒 海 奥 和 布 青 鷲

揚 枝 木 煮 松 葉 藥 州

國よ。三郡各々
おろ。若狭と大飯と三方と。越前
之郡の産を
第二加賀は本を花
山を白山あり。若狭と大飯

○越前 八郡

今三南條敦賀足羽

吉田丹生坂井大野

田數三手首主六丁

萬六千九百三十三石

昔越の国界廣大

也と後小越前越中

越后加賀能登出羽

六国に分ちけり

歴敦賀 越前三郡

おまきむ。あま海濱白塩

乃地石川能をそれよと

能ふし一圓を名難す

第四小能登を越中の小

あまれる大押を海濱

足羽 越前五郡

○土産 奉書鳥子

雲紙素濃紙弘奉書

仙須嶋布割紙布夢

屑頭巾佐綿切石砥

連尺細代行李素麵

油桐駄馬淇壺鮭鱈

黄連

○加賀 四郡

河北石川能美江沼

おちの海あま。味屋能よ

通銀をまに。あま。わ

あま西ふあま。は海濱

あま田多

第五を越中東南あま。

田數万平音英丁

高四六万石余

古ハ我ク書す仁徳天皇の御代越前国

小保と後弘仁十四年

越前国の二郡と割

て再び加賀国とかい

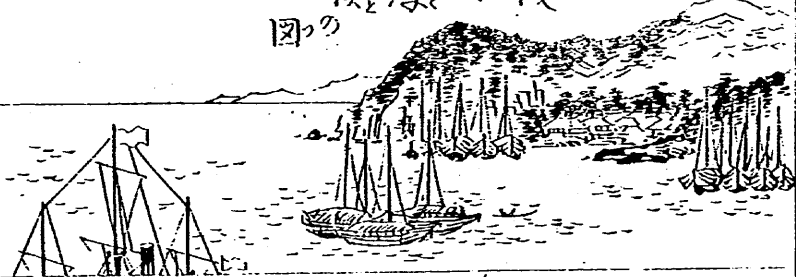
懸 石川 鑒田 金沢

○土産 米 絹 撰糸

笠 萩原紙 鼓皮 漆 手綱

西へ渡りてふか山に。死に
あふる所。さふちを。日
佛。新津。土立山。刻山。中
田。市通。二川。ある。新川。縣
と。それ。ふ。な。を。ふ。一。ふ。一。

越後新湊図



第六越後を三城の中
極えて北方附一石
言ふて全國して山嶽を
是れ新湊に坤を新

象眼彫。硫黄。塩硝。黒梅。漆。

○能登 四郡

羽咋。鹿嶋。鳳至。珠洲。

田數八千四百七十九丁

萬七千三百石余

古ハ能登等ト書ル。天平

宝字元年五月。裁中

ト云ク。能登國ト云ル

○土産。鯖。素。茹。雪。茗。

みえの。佐山。何事も。貴
大も。と。是。如。山。名。山。と。
東。水。の。端。旭。山。名。と。北。を
北。と。と。海。と。と。と。と。
左。海。と。と。と。と。と。と。と。と。

経。細。苦。九。万。石。余。石。類。

○越中 四郡

射水。礪波。新川。婦負。

田數二千三百九十九丁

萬八千八百石余

廳 新川一田

○土産。法。砂。砂。塩。硝。

絹。八。講。布。鯉。九。万。石。

○越後 七郡

北。中央。貴。と。新。河。の。港。
乃。方。と。と。と。と。と。と。と。と。
多。と。と。と。と。と。と。と。と。
出。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。

浦原岩船頭城古志

魚沼外羽三島

田數三万三千七百九丁

萬百十四万石余

大正三年三月裁中

四郡と分て當国併す

廳 新設 二郡

柏崎 五郡

○土産 漆 蠶 白布

宿布 臭水 油 白兔 白芥

子 黃連 當歸 糸 奥

○佐渡 三郡

加茂 難太 羽茂

田數四千八百七十丁

萬十三万石余

上古の佐渡島と云天

平十五年裁後国併

す天平勝宝四年十二

月より佐渡国と爲

廳 相川 一四

易城。其まに新屋建られ。

城は二町とある程をす。

法者に分當りて片備の

兵は一大隊。柏崎にも新

あき。是も五町に程あり。

第七佐渡を城後よりとわ

わたりて高き内地を安

お多し。理上杉山と瀬川。

榎町山と四十八瀬。と

天皇に後あるを南に

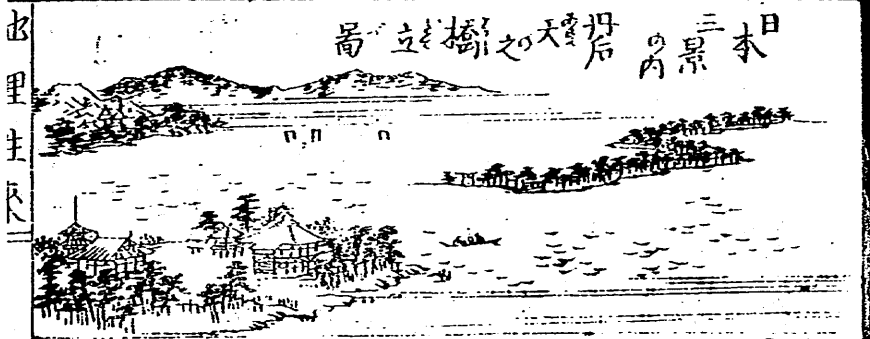
○土産金銀銅幸
黄連強藥小鯛

山陰道八國ハ

崇神天皇代十年丹波
道至の命小命一丹
波道ふき一伐一む
十二年討平け扉陣
つひに四道將軍ニ
れり

海産物多しと譽れ
右川も福治あり

山陰山陽ニそよそよと
能く長き玉地南山海
其中央外に新製二層と云



山陰北順次あり
第一是神丹波と云ふ山
あてあふ山多しと云ふ
雪は水大川と成て丹波

○丹波 六郡

船井何鹿栗田多紀
永上天田

田數二万八百五丁

高三十二万四千石余

古ハ丹波又且波但
波ハ書ト

○土産茶。蠟。秋。太
煙。州。蘭。建。太。布。辛。灰
杓。灰。栗。藥。種。類

○丹後 五郡

与佐加佐中熊野竹聖

田數二万八百五丁

萬十四万八千石

和洞六年四月丹波国
の五郡と割て富国と置

○土産。鹽。系。箔。緬。油。

海。真。鰯。鰯。海。松。葛。菫。
胡。芦。蒲。黄。手。海。花。海。鼠。

○但馬 八郡

丹波に入る。其方江。水。を。混

令。之。城。大。堰。の。川。源。を。と

第一。丹波。北。山。と。い。ふ。處。

名。も。大。江。山。丹。波。の。大。川

南。より。海。集。り。て。海。に。入。る。東

西。海。原。三。所。あり。中。央

南。宮。を。さ。る。岬。を。天。の。橋

立。と。し。是。を。名。を。新。三。景

然。二。等。と。い。ふ。稱。一。を。此

第三。但馬。を。川。を。多。く。海。浦

朝来養父二方七味
気多城崎美含出石

田敷八千十六丁

高十四万四千石余

往古ハ但馬馬す多

馬馬す多

豊岡但馬田元豊岡

○土産銀硯石真綿

夢小入参若菜黄連白

木半夏温石確馬特牛

柳行李益州藤表わ

細ユ多

○因幡八郡

岩井法美八東八上

智頭邑美高州氣太

田敷八千十六丁

高十七万八千石

古ハ稻葉まゝ稻羽

書す

鹽島取 元島取

長大流る。東山海

すれ出づ。南方生野

山あり。野々河魚の城

乃き河ハ。京も名々れ涌

泉也。是を縣ハ全國と

丹波一帯を三郡

とを管轄と

第四曰幡々因幡川

一面を流れて終ハ一

廣大なる加苗川也。乃

因幡一四
伯耆一四
隱岐一四

○土產 木綿、海魚

鴨、立貝、貝柱、生糸、川

魚、海素、菊、木、楠、萩、原

紙、引、田、紙

○伯耆 六郡

河村、久米、八橋、行入

合見、日野

田數 八千十六丁

わさ流きて末に海へ入る。

其鳥取に餘産あり。因幡

伯耆と隠岐は三國

と云々

第五伯耆と南方ふ山を



背負て北に海へ入る。押
さむや。船の三保。関を
對ひける。取も。易きに大
山。雪。日。相。川。東。は。
橋。津。山。あ。る。そ。は。ま。る。ハ。

高二十八万石

昔ハ伯岐マシク伯岐共

書す

○土産 伏瀨熊鷹

筆 鮑履斗 木綿

○出雲 上国 十郡

嶋根神門 秋鹿 楠健

出雲 飯石 仁多 大原

熊義 意宇

田數九千九十六丁

高二十八万石

夫當國ハ神代ノむ

須佐ノ平命御みつ

不服人とも征伐るこ

ひより以來大己貴神

まで此國と所領し

其年歴いと長く黄泉

は通ひるひる其道

なりといふ傳人伊弉夜

坂の古跡なり

出里 主 末

皆山海へ流き出た

第一 出雲此國を云ふ也

出雲 楠健 秋鹿 なるも 云

根 なるも 四郡 なるも 云

都て大岬 長太 瀨を色と

有る 杵築此大社を云ふ

日 漸 なるも 佐田の浦 なるも

なるも 佐田の浦 なるも

なるも 佐田の浦 なるも

第七石見 なるも 佐田の浦 なるも

出里 主 末

廳 島根一田 松江

○土産 蠟燭十六島

苔人參 和藥 木綿 鉄
紐 紺 漆 鯨

○石見 六郡

安濃 迦摩 邑智 那賀
美濃 鹿足

田數 七千十二丁

高十八万石余

廳 濱田一田 濱田

○土産 銀 錫 銅 蜂

蜜 防風 葛 石 梓

○隱岐 四郡

海士 智美 越智 周吉

田數 六百二十四丁

萬一萬二千石余

○土産 桐材 菜 材

和布 鮫 煮 海 鹿

上古の隱岐島といふ

まこと意岐といふ書に

也 里 生 氏

わがるに北川を國內貫ちて

其水も北の海へと流出づ

西を川を落合とて角川の

ち河とて石見河一と

なるれ出づ濱田縣治建

置き其の國を名稱す

第八隱岐を雲の川四島

今を分一とす三を小とす一

矣。岬灣多々廣大なり

別島連無数なり



山陽道乃八ヶ國

第一播磨をあらわ。加古川

西をたれ河を中へ市内

小形に南の海岸の石浦

舞を此宮よりある乃

○播磨 十六郡

明石美濃加古印南

加東加西多可神東

神西飾東飾西揖東

揖西赤穂佐用完栗

田數二万七千六百六丁

高六十五万石余

昔の針間と書け

願飾磨雄路

是山陽道のにじめて

出里生来

山陽道

五

社を修くる程の程。其外

名味数多し。飾磨は其ハ

其國神系一宮。室糴江

第一美作の國あり。其ハ

其東河の中をなる海は

崇神天皇十年吉備
津彦の命と西の道へ
遺る荒振神と征て
一む翌年小惑く討平
らげく帰陣ある四
道將軍これなり
○土産 木綿豆袋
綿鉄綱絨組襦袢襦
襦革襦襦襦海魚塩
○美作 土郡

山川あり方は勝なり
傍て流るる河あり。若に
備前を注ぎ入る小室縣を
そむを都て吾雅政とる
第三條あり土郡なる美作

東南條東北條西北條
大庭真嶋久米北條
久米南條勝南勝北
英田吉野西條

田數二万四千六百十寸

高二寸六分石余

廳北條二田

○土産 塩硝硯石

兼州川奥

○備前 八郡

山能山あり。必州能
るれ入る二北川を國日成
巡る南の河と出づ。南
離るる山あり。北道路と
能るる。是より北河口

御野津萬赤坂盤梨
和氣邑久上道見嶋

田數二万三千二百六丁

高四十二万石余

廳 岡山二田 岡山

往古ハ吉備国といふ矣

龍元年備前備中備

後と三同ふなり

○土産 木綿綿素

麴陶器 茅州 海魚類

なり。岡山縣を其國と。一帯
を轄するを衆

第四備中と云ふなり。南

流を河内河にすなり

八幡山。山を刻山と云ふなり

○備中 十一郡

上房阿賀川上小田

後月下道賀陽都宇

浅口窪屋

田數二万八百十三丁

高三十六万四千石

廳 小田備中一田

古ハ吉備中縣又吉

備中国ともいふ

○土産 紫根木綿

赤松塩津打きもその
宮内と云備は衆三備を
ち備の宮なるなり。小田
おはれなり。備中一國
備は衆。古郡之民衆を

鐵漆松原紙小龜大

高摺紙藤行李柳

○備後 十四郡

沼隈深津安那品治

芦田神石御調世羅

三谿三上奴可甲怒

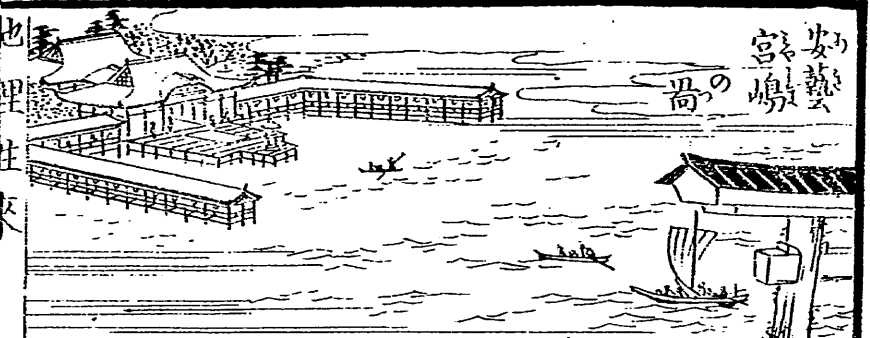
三次惠蘇

田數九千三百五十五

萬三千二百五十五

○土産 豐表烟州

第五の備後を西北へ江乃
河をぐり石入るまき河
葦田川南河新津まき
むの。日東第一形勝也。
韓人等攻めて一ヶ所に



第六安藝は宮内省の本
邦三景は事ごとく。まの中
央城の川に龍王南の牙。
少屋河とや海入る大島
わたり多し。廣大島を

木綿綿（編）

○安藝（八郡）

沼田佐伯豊田山縣

高宮加茂安藝高田

田數二万七千半丁

高三十二万石

廳 廣嶋（安藝二郡）

○土產 半紙紙子

水晶 苧草 蠶 塩硝 灼柿

山葵 海魚 類今 兼藍

安藝一國備後八郡

管領止。此等を鎮守分

守あり。各備のおおし一太

第七の周防より東の

方より岩國川を越え

高。東南の海中に。徳

を大船が来る。山口縣を防

長。此を捉えて管轄と

第八の長門より南西

より方。海岸ありて高

古ハ安岐又ハ安木

とも書と

○周防 六郡

都濃玖河吉敷熊毛

大嶋

田數七千六百半丁

高四十九万石

廳 山口周防二郡

御古ハ周防と書ハ

○土產 半紙 斤打

書板紙紫漆布縮
布結鹿子。三月草

○長門 六郡

阿武豊浦。大津。厚板

美振。見場

田數四七五町

萬四千石余

古ハ穴門國又穴戸

書に

○土産 米。礪。烟。州

多クをめれ方ある。その西

南ハ九州の雲和向小國

中。赤間関。山。海。玄海

海。の。取。取。よ。て。二。所。も。要

地。乃。海。門。なる。と

石炭。磁。器。素。基。石

茶。州。海。奥。印。龜

南海道。六ヶ國

○紀伊 七郡

伊都。那。賀。名。州。海。部

有。田。日。高。牟。婁

田數七千九百九丁

萬四千四百石余

古ハ本國又紀國

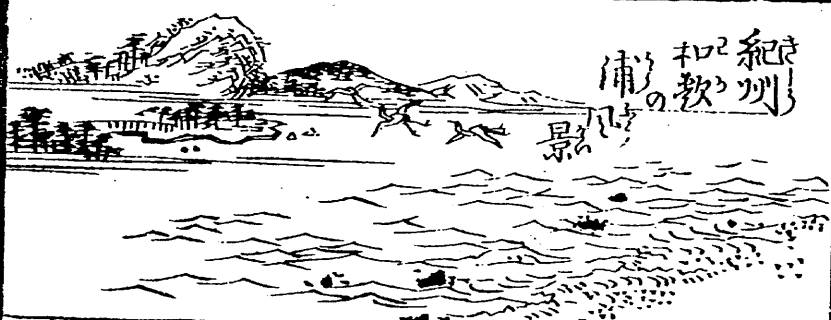
南海道。六ヶ國。紀伊。を

山。山。嶺。と。淡。路。と。四。門。ハ。四

す。海。上。地。を。三。所。を。離。れ

ど。海。路。を。以。て。一。道。と。し

第一。紀伊。を。畿。内。と。し。南。に



あきる國より東南西乃
 三方は皆測量する大海なり。
 大和橋する北の方。山嶽
 多し高野山に伊弉冉
 此下流るる。南に那智山

書以今紀伊国と書

てきの国撰津国と書

くはの国と云ふ同ト

廳 和歌山七郡

○土産 蜜柑良材

蜂窩推茸漆器岩茸

縮松煙鯨海魚海州

茶州奇石傘紙

○淡路 二郡

三原津名

也里生衣

也里生衣

ト

雲雀山の岬を岬と倚
 ぬ山をけを花地をば海
 部和と名付たる。粟山
 社あり。和歌山縣の國
 内にて和歌山縣の國

田數二千八百五十丁

高九万八千石

古ハ淡道嶋まこと淡道しほみち書しす

○土産 陶器 木綿 五色撒石 海夷類

○阿波 十郡

三好 美馬 阿波 板野 麻植 名西 名東 勝浦 那賀 海部

田數五千二百五十丁

高三十三万石余

廳 名東 一田 德嶋

古ハ粟あわと書れり

○土産 藍玉 塩 木綿材 木 索 麩 蛤 蛸 燧石 和布 鹿尾菜 海魚

○讃岐 十一郡 三島

大内 寒川 三木 山田

香川 阿野 鶴足 那珂

第二淡路を紀伊に西に

當る大名に之を倚る小

治を要。碓敷盧島と云ひ

は日本第一の生國何

ぞくは皆舟泊。是は奥に

先山あり。西に流る三原川。

四方に飛島村あり

第一阿波の西に土佐の

藩府を界せり。右に海

を。浦に海一泊あり。右に

田數七千九百四十二

小豆嶋 塩飽嶋 直島

高三万石余

廳
香川^{かがわ}
一田
高松^{たかまつ}

○ 土產 砂糖。塩。素。

考圓座海魚類

○伊豫
十四郡

宇磨うま新居しんき野間のま周布すふ

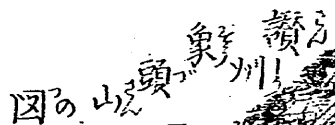
素村越智。早和氣。

と云ふ。東^{ひが}出^でる芳^{はな}野^の川^{がは}良^{よし}

海うみより小このつつ湯ゆなり。
うみよりここのつゆなり。

名東乃縣を阿波漢路

萬國
香雪齋



第四を則ち讃岐より東
 もくろもき名取山鈴乃
 山と珠山と五福山より八栗
 山と乾乃河濱
 所はま今に倭国とら所

温泉伊豫。宇和喜多。浮穴久米。

田數二畝。六百廿五丁

高四十六万石余

廳石蔵十郡。松山

神山四郡。宇錫

○土産。洞紙奉書

萩原。紫布。箒。木綿

同錦。茂新。半夏。桑州

素。麩。五穀。海。魚

昔ハ伊余又伊余ト

も書キテナリ

○土佐 七郡

安藝。香美。長岡。土佐

吾川。高岡。幡多

田數六千六百廿五丁

高四十九万石余

廳 高知。一田

往古ハ土左。ま。都

佐。とも書ク。白。鳳。十

小豆。伊。香。川。の。終。一。國。此

管。轄。を。せ。る。廳。也。至。其。基

を。今。も。其。舊。を。循。て。其。一。た。跡

第。五。の。あ。き。る。伊。豫。の。ま。な。ま

室。石。樵。山。南。に。在。る。中

央。と。唐。名。岳。の。管。生。山。東

南。土。佐。と。お。接。し。山。嶽。也。と

て。地。高。し。あ。ら。方。の。海

岸。を。岬。灣。島。嶼。鰐。沼。と

海。中。に。突。出。し。て。高。岳。乃

三丰諸国大地震の時
 當時富国の田地五万余
 万頃没して海となり
 此時伊豆国ふんの
 嶋出来たりといふ
 ○土産 紙鰯青紙
 紫袋紙 清長仙花紙
 砂糖 推茸 樟腦 茂新
 野麩 肺良 材太 布海
 州半種 蜂窩 野根 拔

形の蜂掃する。是をむけ
 隊北の面をれ。石鐵を
 十郡。神山縣を四郡を
 國。新。室。移。去
 第。ある。土。佐。の國。西北。伊

洞糸

西海道十二箇國

○筑前 十五郡

遠賀 宗像 鞍手 徳波

嘉麻 上座 下座 夜須

御笠 糟屋 席田 那珂

早良 志摩 怡土

田數二万七千五百

萬六千九百石余

也里注東

隙。界。て。山。陰。阻。重
 雪。の。山。を。此。れ。と。稱。山。の
 續。て。修。峰。白。和。山。西。り。山
 矢。吉。山。角。山。ぬ。山。標。山
 山。標。山。仁。井。山。ある。南。の

廳 福岡 一田

往古ハ筑紫とも又
 全志とも書ケ後ハ
 筑前筑後兩國合
 惣テ西海通ト筑紫ト
 以テ其國數々や九國
 三嶋なりト天長元
 年九月多岐嶋ト傳
 テ大隅ハ入ル以後九
 國二島ト稱ト

方、渡山、傍て流る、沢川、東
 南を岬とし、中を抱ふ、南海を
 廣大に穿て、北を瀕なり。
 高知、一經、江、建、ふ、れ
 其、一國を、管、轄、以



西海道を十一國を以て四方
 海原とて、西を遠く、吳越を
 見ふ、其、お、解、素、の、り、に
 其、第一、筑、紫、の、南、を、筑、後
 紀、伊、の、橋、一、山、を、流、く、を、中、に

太宰府

三笠郡あり則国

府なり當府の都て

九国二島を掌り且

諸蕃の来聘おもひ

非常とまのり

諸蕃といふて外国と

り唐土三韓といは

唐土ハ今の支那あり

三韓ハ今の朝鮮を

古ハ馬韓辰韓弁韓

の三韓といハ後ハ新

羅百濟高麗と改む

皇国ハ始メ貢献す

るハ任那国あて百濟

の東南の国なりしが

推古天皇の御代り

滅亡せし

探題職

武家より此職を買

也里生来

最高といハ御笠山。即ち米山

之像山。西北方に在る雷山。

海濱より望み見ゆるを

多き其中心に海を隔ちて云

海島。海を隔ちて海を隔ちて

海を隔ちて海を隔ちて

海を隔ちて海を隔ちて

第二はハ筑後すて。み

山。山より井島。山を繞るを

筑後山中央に在る。名江川

也里生来

七

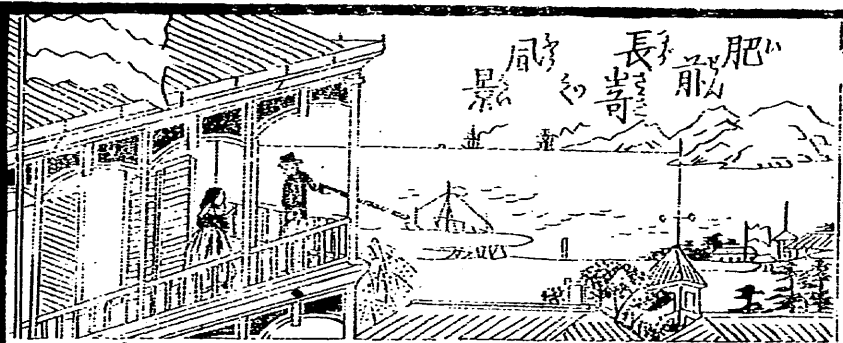
伏見天皇^{ふしみたう} 仁元年^{にげんねん} 豫倉^{よくら}の執推^{しつすい}
 北条貞時^{きたうしんとき}との一族^{いっしゆく} 時^{とき}と始^{はじ}く法西^{はふせい}の探^{たん}
 顯^{けん}と為^なりて西国^{さいこく}と 監督^{くわくく}せりて同時^{どうじ}に
 長門^{ながと}にも探顯^{たんけん}と置^{おき}て中国^{ちゆうごく}と掌^てりて
 文永^{ぶんえい}十一年^{じゅういちねん}十月^{じゅうがつ}五日^{ごにち}
 元兵^{げんへい}對馬^{たいま}に入寇^{にゅうこ}す

あゝ三港^{さんこう}のふれお屋^{おや}を
 第二^{ふた}重^{じゆう}前^{ぜん}小^こ海^{かい}を
 音^{おと}皆^{みな}山^{やま}と。陣^{じん}を
 中^{ちゆう}に名^な譽^えハ彦^{ひこ}山^{さん}こ
 小^こ倉^{くら}の船^{ふね}を其^{その}國^{くに}を。一^{いち}番^{ばん}管^{かん}

十四日^{じゅうよにち}吉波^{きつは}を攻^せめ賊^{ぞく}
 二嶋^{ふたじま}と破^{やぶ}る

十九日^{じゅうくいちにち}二十日^{にじゅうにち}博多^{はくた}を攻^せめ
 戦^{いくさ}一^{いち}宣^{せん}軍^{ぐん}多^{おほ}く賊^{ぞく}と
 撃^うつ此^{この}夜^よ大^{おほ}風^{ふう}雨^うと
 賊^{ぞく}船^{ふね}多^{おほ}く破^{やぶ}る賊^{ぞく}兵^{へい}
 遁^{にげ}走^{はし}る賊^{ぞく}軍^{ぐん}不^ふ還^{げん}者^{しや}
 一^{いち}万^{まん}三^{さん}千^{せん}五^ご百^{ひゃく}余^{あまり}人^{ひと}賊^{ぞく}
 軍^{ぐん}初^{はつ}め二^に万^{まん}五^ご千^{せん}高^{たか}藤^{とう}
 軍^{ぐん}八^{はち}千^{せん}合^あて二^に万^{まん}三^{さん}千^{せん}

移^{うつ}波^はを。以^{もつ}所^{ところ}に法^{はふ}西^{せい}鎮^{ちん}
 名^な譽^えハ彦^{ひこ}山^{さん}の兵^{へい}を二^に大^{だい}
 隊^{たい}を分^{ぶん}肥^ひ後^ごとす也^{なり}
 第^{だい}四^し豐^{ぶん}豆^{とう}後^ごを其^{その}北^{きた}海^{かい}面^{めん}岬^{さき}
 湾^{わん}に多^{おほ}く。西^{にし}と中^{ちゆう}國^{こく}より山^{さん}



阻。高崎山之極山湯山
 由布山錦嶽姫山紙山
 其市。元。新。人。山。嶽。八。噴
 火。多。以。車。南。山。涉。舟。岡。川。
 大。分。縣。其。國。を。皆。一。言。ふ

人其殺さる。過半を
 支我兵の勇闘推し
 て知る。建治四年
 六月五日又賊と志賀島
 小戦ふ。是を敗る。五日
 より十二日。至り。九日の戦
 争。賊一度も勝とある
 と。ゆへに。肥前の難所
 嶋。小退く。国。七月。朔日
 肥前大。作。賊。船。皆

管。理。す。と
 第五。肥。前。を。紙。前。と。紙
 後。不。北。西。南。を。多。押。前
 嶋。前。を。自。と。一。乃。と。紙。す。
 漁。却。北。富。饒。其。あ。び。を。き。

破船沈没一賊歸國

賊七千人

土産 米 五穀 唐

織帶 地 練酒 海 魚

○筑後 十郡

生葉 竹 堅 山 木 市 原

市 井 上 妻 下 妻 三 瀧

山 門 三 池

田 數 三 萬 五 千 丁

高 五 十三 万 石 余

廳 三 瀧 二 田

○土産 五穀 石炭

紅花 木綿 絹 麻

○豊前 八郡

企 救 田 川 京 都 中 津

筑 城 上 毛 下 毛 宇 佐

田 數 七 千 五 百 七 十 丁

高 三 十 六 万 石 余

廳 小 倉 二 田

也 里 主 八

中 乃 長 崎 如 茶 交

易 市 初 の 大 港 亦 一 轄

振 後 孫 山 南 之 監 其

溫 泉 嶺 乃 亦 高 之 嶺

之 乃 佐 賀 の 縣 治 其

玉 比 乃 郡 公 署 其 乃

長 崎 縣 乃 亦 三 郡 之 役

對 馬 比 乃 國 乃 併 智 之

管 治 乃 亦 其 乃 主

第 六 肥 後 乃 阿 蘇 山 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

往古ハ豊國といふ後
 小前後の兩國に分つ
 ○土産 小倉嶋硫
 黄水晶山州海魚

○豊後 八郡
 国東速見大分海部
 大野直入玖珠日田

田數万三千五百丁

高四十三万石余

廳 大分 田

煙を絶やして白山種山
 當田山本山の川尻河ハ
 代リを新大なる。西に海
 手ハ新なる。三つ四つ合
 新とす。三つ五つ郡是くなる



代新に六郡の白川
 九郡なる。比より當分鎮
 西に新なる。五つ六つ
 第七日向を山に方矢山嶽
 新標。臺尾山。新年。高

○土産 湯江礬石
 塩硝水晶 蘭墨表黒
 緋布紋木綿燵筆官
 大竹虎彫竹切屢斗
 湯海魚 茂材木 糸
 州煙草
 ○肥前 土郡
 彼杵高来 松浦 藤津
 杵嶋 小城 佐賀 三根
 養父 基肄 神崎

于腫名高く西邊に高
 峯立ちふ。新橋山は噴
 火の地。法華嶺に枯鼻
 新住吉山。牛嶺。猿川
 よるよりれ少く。赤松河へ

田數一万三千四百七丁

高七十六万六千石余

廳 長崎 肥前 三郡

佐賀 肥前 九郡

往古火の国といふ後

肥后肥前小分

○土産 米 石炭 磁

器 茶烟 州 墨表 畔織

木綿 画筵 画簾 海魚

西丸 鯨 鰯 海州

高きゆく。大滝川を大河に
 美津の船を玉内で
 五郎名宿 時を知らず
 第八大隅 三方ハ山と南を
 海に出づ 肝膚 大隅 二郡も。

○肥後 十五郡

玉名。山鹿。菊池。山本。

阿蘇。沓摩。飽田。合志。

上益城。下益城。宇土。

球摩。芦北。八代。天草。

田數二万三千四百五十

萬八十四万石余

廳 白川 九郡 熊本

八代 六郡

○土產 禾。麥。柘。陶。

東南分大岬熊毛郡を
種子崎。馭。漠。郡。を。居。る。島
を。そ。北。南。海。對。座。乃。寄。
海。上。凡。二。千。里。程。是。を。併
て。そ。國。と。ふ。郡。城。乃。新。を



地理後集

卷之十

三

日三郡 當はる島 萬千穂
第九薩摩を 東海 西三方
海を 東北 間を 日陽 肥
後を 岬 湾 海 以 數 多
南を 高き 海門 嶽 薩摩

器紋太綿煙官砥石
皮龜燧石。若石海魚
海州藥州

○日向 五郡

児湯臼杵那珂宮崎
諸縣

田數八千六百六丁

萬三十四万石余

廳 都城日向三郡内
大隅六郡

美津日向郡

富士とは是れ北に
紫尾山中央を薩摩山
新山北岬を聖旨岳東
ふもとを白島三嶽を
しと海たる西海龍崎に

景行天皇 代始日
向国と名づけり

○土産 松材炭苦

竹漆漆行茶黄葉茶

五倍子

○大隅 八郡

始羅肝属噉大隅

菱刈素原熊毛取謨

田數四千七百七丁

萬七十七万石

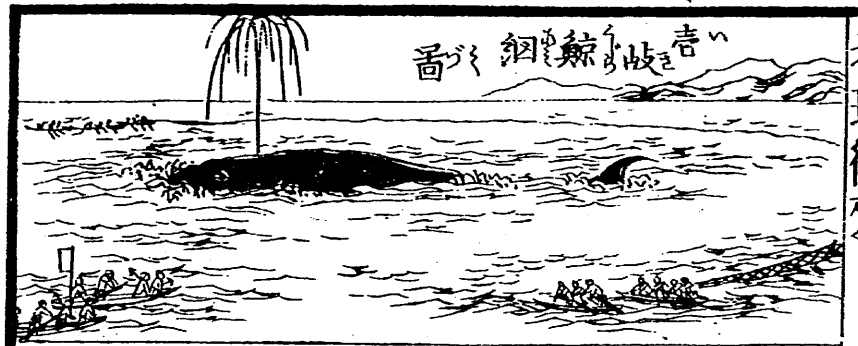
三島併せて一郡とて鹿
見山新の国を一言に
まゝ大隅で二郡とて琉球
地併せて管轄するあり
此等と龍巻なるあり

和洞六年四月日向國
 四郡と今て當國と置
 く天長元年九月多
 龍島と傳る當國屬
 ○土產 鉄炮
 ○薩摩 十三郡
 鹿児島 給黎 揖
 宿親 姓河辺 阿多 日
 置薩 伊作 出水 高
 城 訛嶋

第備の兵四小隊
 第十壹使北軍也肥
 前北軍二島とて四万
 甲隊 亦乃才海面長
 突出魚船ハ名を言

田數二万五千石
 高三千五百石余
 廳 鹿児島縣
 大隅三郡
 薩摩四
 琉球國田
 古の洞間と書ハ
 ○土產 黒砂糖 杓材
 烟州 紅花 紫根 赤芋
 硫黄 樟腦 大傘 牧馬
 生蠟 木綿 緋 蠟 蠟 入
 參 海人草 裁木

第十一を對了北軍を夜
 子乾あふ海軍を夜を
 去る五千里程北より南
 を稍長一車め二万の海軍
 多くは安日暮大星の矢



まのよみ何れも劣
 程ぬ島山そ浅茅浦
 海音聞一必可
 折九阿北総名をほ昔筑
 紫れまといひ或も日向の

○壱岐 二郡

壱岐石田

田數六百三十丁

高三万三千石

往古の伊吉嶋といふ

伊岐とも書け

○土産 綾布 海栗

鯨鯨

○對馬 二郡

上縣下縣

國と云ふ今北白隅薩三地
 られぞ本府開府乃臺
 市北地ましくる振井代の
 清沢野鹿るといふを
 まふとぞの

田數六百丁

高

吉川の津島又集島と

も書す對馬との三韓

の馬韓則ち百濟國

對するより對り一名

なり

土產 人参 靑磁

石 松 椎茸 鮑 蟹 斗

海栗

夫我邦の地勢もろや良坤

の伸び四方を海を道以て

此中番をて寒暖正しく

氣候和し穀財産富

饒そそ不毛沙漠の所なく

○琉球國 十五島

沖繩嶋 計羅嶋 戸舞嶋

久米嶋 粟嶋 伊恵嶋

伊豆那嶋 惠平嶋 鬼泉

嶋 大嶋 徳久嶋 永良

部嶋 多論嶋 宮古嶋

八重嶋

以上十五嶋

主府の沖繩嶋 那覇

港あり 鹿兒嶋も

惡獸毒蟲を絶ち

人忠信を道に樂しむ

皇化を慕ふ計をけり

そよとよ子に書をきき家

乃視海より元をきん